



平成28年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2016/5/11 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 A 問2 B 問3 D 問4 C 問5 B 問6 D 問7 B 問8 C
問9 A 問10 D 問11 B 問12 D 問13 B 問14 C 問15 D 問16 A
問17 C

第2問（12点）

問1 E 問2 D 問3 D 問4 A 問5 C 問6 B

第3問（18点）

I

問1 C 問2 B 問3 E

II

問1 A 問2 C 問3 B

III

問1 A 問2 A 問3 A

第4問（26点）

(1)

① B ② H

ア B イ C ウ A エ B

(2)

③ H ④ B ⑤ D ⑥ C ⑦ I

(3)

⑧ J ⑨ I ⑩ G ⑪ A ⑫ F ⑬ E

オ A カ D キ A ク D

(4)

⑭ H ⑮ D F

ケ C コ E サ E

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2016証券アナリスト1次試験（春）

「財務分析」

2016年（春）試験は、例年通り大問4問の出題で、各大問への配点も同じであった。第3問および第4問における一部の問題を踏まえると、全体としては例年よりやや難易度の高いものであった。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、17問の出題であった。会計情報やセグメント情報など一部細かな論点が見られたが、キャッシュフロー計算書、減価償却、リース、株式価値評価等、定型化された項目も多く高得点の望める内容であった。

第2問の個別計算問題は、6問の出題であった。総じて基本的な処理が問われた。満点を狙える内容であった。

第3問の総合計算問題は、9問の出題であった。Ⅰデリバティブ、Ⅱ税効果会計、Ⅲ外貨換算会計について3問ずつ出題された。デリバティブについては、コールオプションの購入、決算、決済の各時点の会計処理が問われた。また、外貨換算会計については、在外支店の財務諸表の換算が出題された。これら2つの論点は、過去に正誤選択の一部として出題されたレベルであり、かなり細かく、かつ難易度の高い内容であった。

最後の第4問の分析総合問題は、分析対象企業の日本基準と1次試験では初出の国際会計基準(IFRS)の比較であり、新たな切り口であった。ただ、2つの基準の対比は、従来の同業他社比較と同じ要領で解答することが可能であった。内容も、ROAの2要因分解、百分率損益計算書の読取り、主要資産の回転率分析、安全性分析といったオーソドックスなものであり、高得点を狙える内容であった。

以上

TAC 証券アナリスト講師室